

palette kitchen

みんなを“感じる”いえ



Photo 01

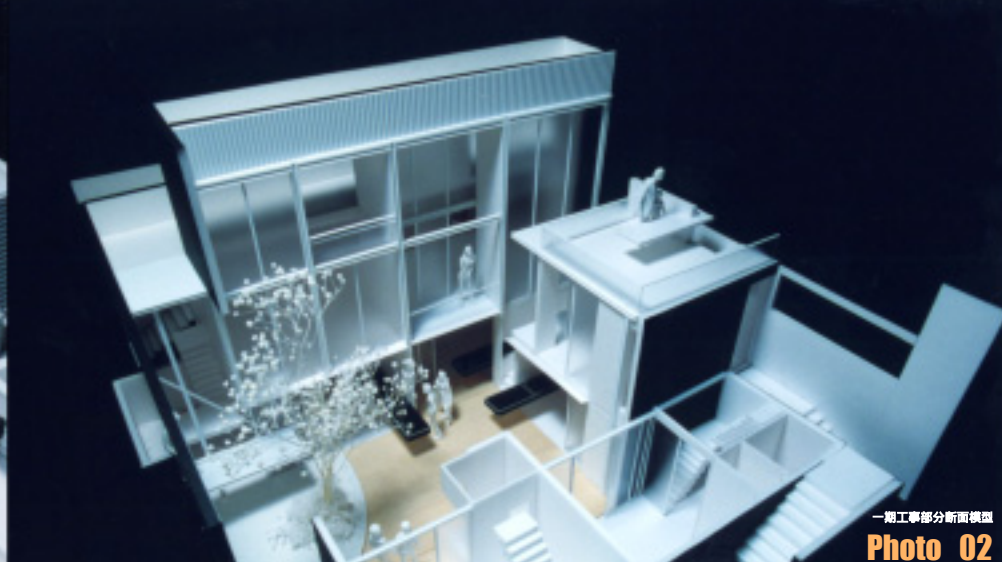


Photo 02

「共同で都市に住むこと」

現代社会において、我々は多かれ少なかれ孤獨な生活者である。あからさまな隔層意識に対する拒否感や、共同体意識に対する拒絶感。これらは無意識に、漠然とした不安感を我々に抱かせ、またこの「不安感」が現代都市生活者の精神を象徴している。

都市に対する「キッチン」という仕掛け
この提案は「食」という共通体験を通じて、人々の無意識に小さな「光」を発生させる。そんなささやかな企みを主題としている。「食」のスタイルは千差万別でも、その旨味は意外に共通である。厨房から漏れる光、食器の触れ合う音、ラジオからの声。各住戸から漏れ出されるこれらの音調は、「パレットキッチン」と名付けられた半透明な「中庭」へと広がり、孤獨な都市生活者同士の存在を再確認させ、隣りかで新鮮な繋がりをゆっくりと意識させることになる。それらは、ある時はノスタルジイと共に、またある時は新しい都市生活のスタイルを想起させ、そしてその「中庭」に柔らかな視線が投げかけられた時、不可視な光の環（和）が住戸全体を包み込む。この光の環は住人の意識を届けて発生し、新たな輝きとしての機能をゆっくりと果たしていくことになる。また、パレットキッチンで費やされた住人の不安や孤独感、ある距離感を保ちながら都市へと広がり、現代都市に新たな集いのあり方を投げかけることになるであろう。

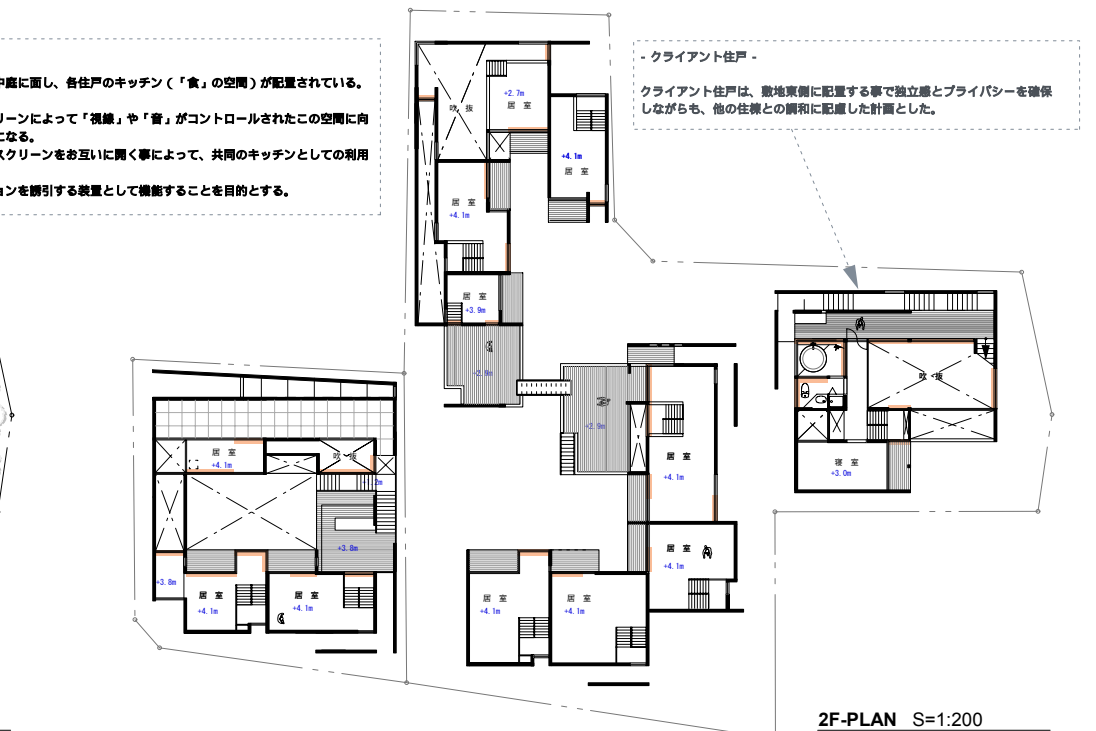
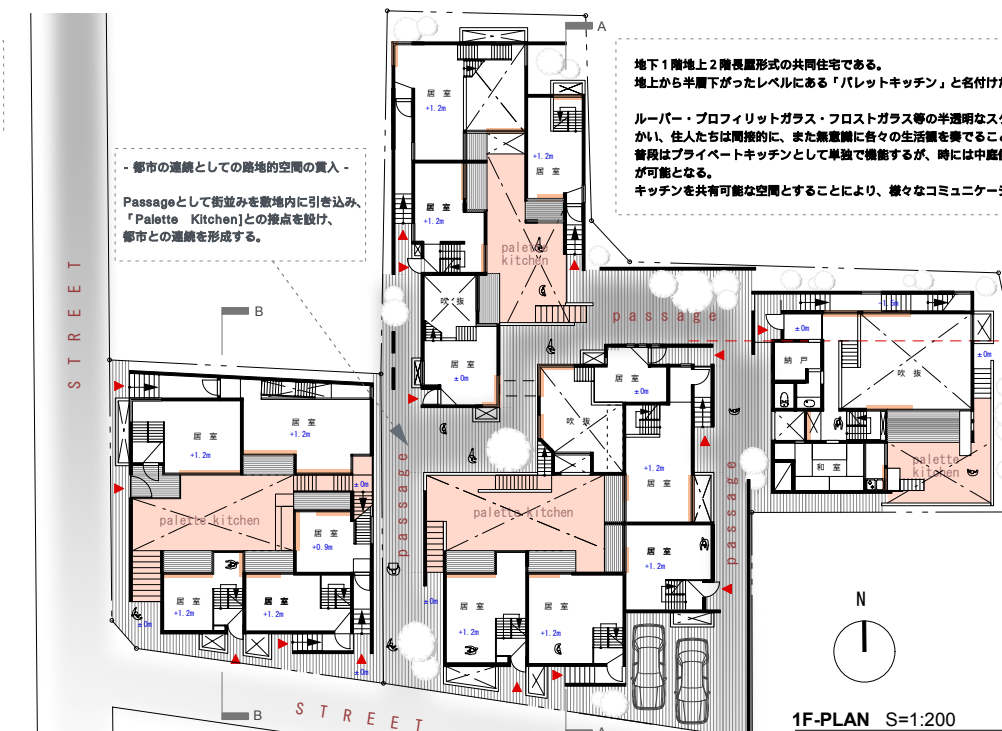
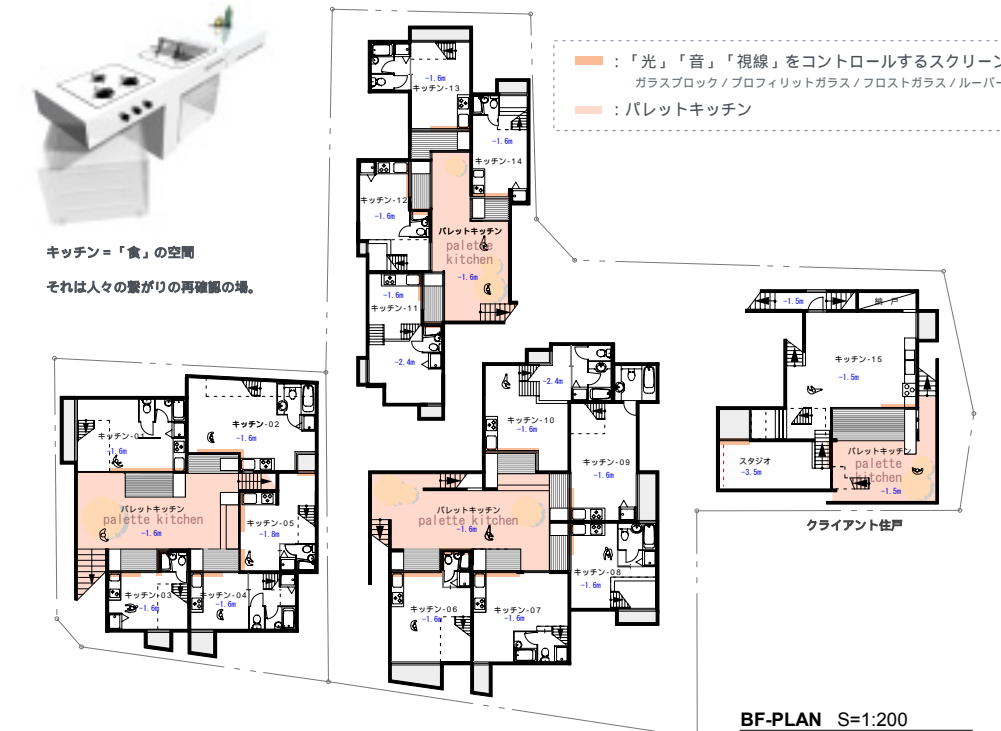
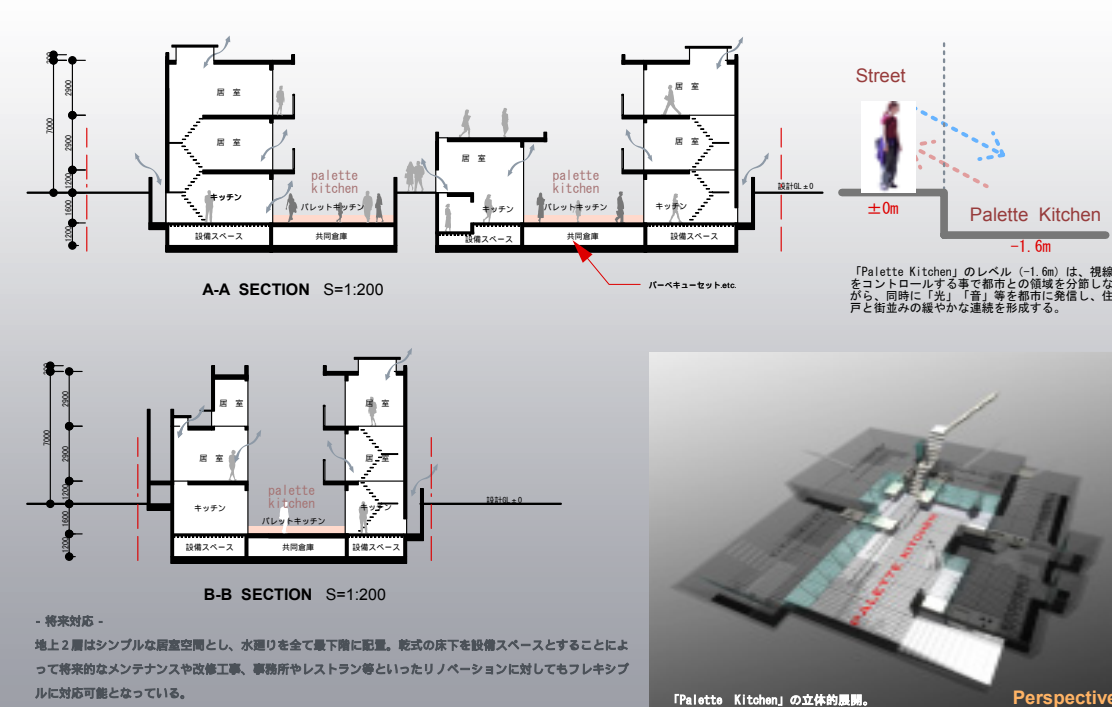


Photo 03

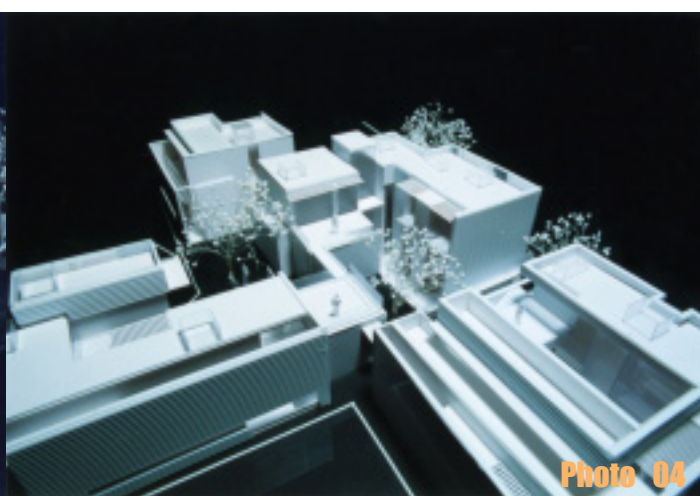


Photo 04

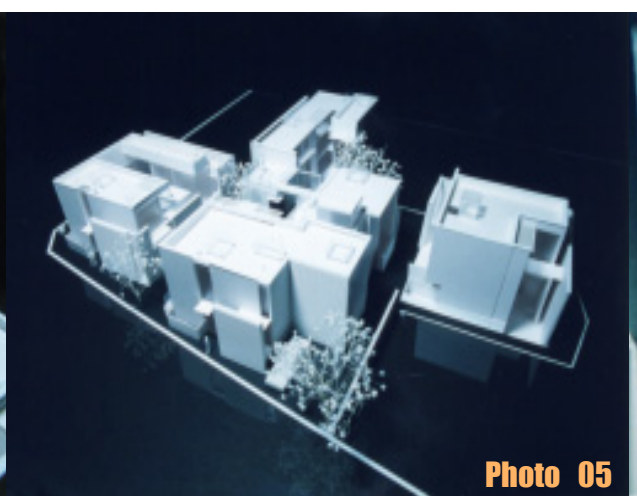


Photo 05

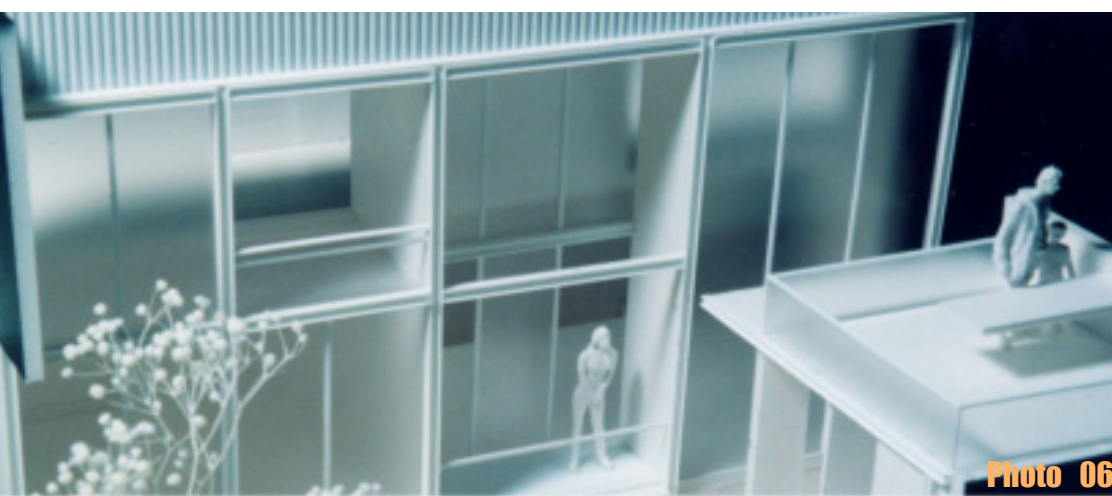
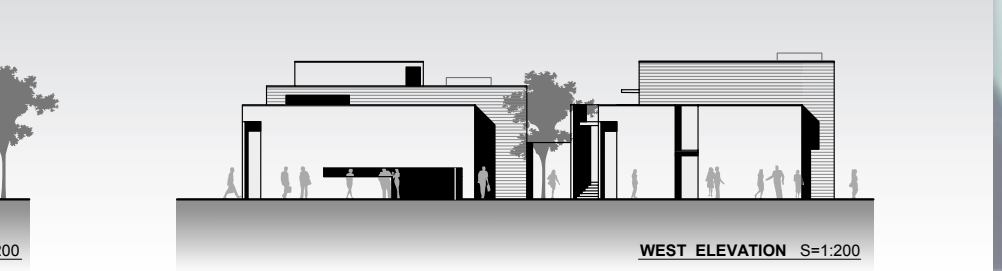
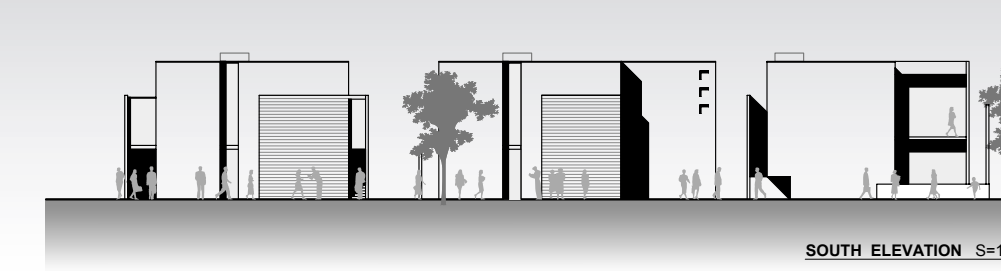


Photo 06



戸種別	一期工事					二期工事					全体合計				
	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10		11	12	13	14
2F	8	0	19	19	0	22	24	20	30	0	7	20	12	18	33
1F	22	30	15	19	14	22	24	20	25	12	15	19	22	18	42
B1	24	30	16	19	20	22	24	20	28	30	24	19	20	18	60
住戸合計	54	60	50	57	34	66	72	60	83	42	46	58	54	54	135
共同倉庫					15					15				15	45
(単位:m)					270										700
															970

※住戸タイプ: 15はクライアント住戸とする。